

広報 しばた



笑顔あふれる、新年を

12月10日(木)に槻木保育所で行われた恒例のもちつき会。
お友達の「よいしょ」の大きな掛け声に合わせて、
元気いっぱいについたお餅を、
ずんだ餅にしておいしくいただきました。
お正月にかかせないお餅。
一年の健康や長寿を願う意味があるとされています。
新しい年が、皆さんにとって健やかで幸多き一年でありますように。

2021年 新年のごあいさつ

まちづくりの次のステージ ガーデンシティに向け 一歩踏み出す



柴田町長
滝口 茂

新年あけましておめでと
うございます。

今年、東日本大震災が
発生して10年目の節目を迎
えます。

10年の歳月を経て、被災
した街は近代的で美しい街
並みとしてよみがえりまし
た。一方で、家族を失い、
ふるさとに戻れない人たち
の心は癒されないうままと
なっています。

東日本大震災後も、大規
模な熊本地震、北海道胆振
東部地震が起き、さらに平
成27年以降、関東・東北豪
雨、九州北部豪雨、西日本
豪雨による水害が発生する
など、自然災害に見舞われ
ない年はありませんでした。

柴田町も令和元年10月の台
風19号によって、甚大な被
害を受けたところです。地
球温暖化の影響なのか、私
たちの想像を超えた自然の
脅威が増してきています。

さらに昨年は、新型コロ
ナウイルス感染症の感染拡
大によって、地方において
は、明と暗、二つの側面が
浮き彫りとなりました。

一つに、新型コロナウイルス
ルス感染症の感染防止のた
めに取られた3密の回避、
移動や行動の自粛、飲食店
などの営業時間の短縮、大
規模なイベントの中止やイ
ンバウンドの停止などに
よって、それだけでなくも傷
み始めていた地域経済の傷

口をさらに広げること
なってしまうました。特に
病院や診療所、介護福祉施
設、公共交通といった私た
ちの社会生活をサポートす
る社会インフラの崩壊が懸
念されています。

一方で、新型コロナウイルス
ルス感染症の感染拡大を
きっかけに、新しい社会の
あり方や新しい生活様式の
提唱がなされ、これまでの
暮らし方、働き方の見直し
が進められています。

今回、過度に人口が集中
し、3密になりやすい大都
市のリスクが浮き彫りと
なったことから、若者を中
心に自然環境が豊かで、時
間にゆとりがあり、広々と

した中で、伸び伸びと暮ら
せる地方への関心が高まっ
てきています。

国は、そのような田園回
帰の流れを後押しするため
に、昨年7月に「まち・ひ
と・しごと創生基本方針2
020」を閣議決定し、地
方におけるサテライトオ

フィスの開設やテレワーク
による多様な働き方、都市
と地方での二地域居住を地
方創生の新たな切り口とし
て推奨しています。今後は、
ITを活用した中での「関
係人口」の創出や地方への
移住定住が、地方創生のメ
インテーマとなってくるこ
とは間違いありません。

柴田町においても、コロ

ナ禍の終息に全力を挙げる
とともに、アフターコロナ
時代における新たな生き方
や働き方、ライフスタイル
の動きを先取りして、柴田
町独自の発想でまちづくり
を進化させていきたいと思
います。

令和3年におきましては、
未来の動きがまだ十分予測
できない中ではありますが、
柴田町の喫緊の課題である
コロナ禍や自然災害への対
応を基本政策に据え、その
上でデジタル化社会の到来
を見据えながら、柴田町の
成長発展に向け5つの基本
目標を掲げ、町政を運営し
てまいります。

1 安心安全なまちづくり

近年の気候変動の影響によって、頻発化・激甚化する洪水や土砂災害から住民の命と財産を守るため、治水施設の整備強化はもとより、住民の自主的な避難行動を支援するための的確な情報の提供、快適な避難所運営などに総合的に取り組んでいく必要があります。

国や県においては、台風19号を教訓として「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を策定し、堤防の強化、河道の掘削、支障木の伐採、水位計の設置などに着手しております。

柴田町でも、河川の浚渫や大型の排水ポンプ車の購入、常設ポンプの増設や防災ラジオの購入など、ハード面、ソフト面からの対策強化を行っております。しかし、それでも住民の皆さんには、いざというとき、自分の命は自分で守るため

の避難行動を常に意識していただきたいと思っております。

行政と住民が、日頃から防災・減災について学び、訓練を重ね、行政からの避難情報を待たずに自主避難できるようにすることや近隣同士の声がけで、災害弱者の被害が少しでも少なくなるよう自然災害への備えを強化してまいります。

次に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、ひとり親世帯など社会的に弱い立場にある方々の家計を直撃するとともに、仙南地区の地域医療の中核を担っているみやぎ県南中核病院の経営にも大きな影響を及ぼしています。

子育て世帯が、収入が減る中でも必要な医療を受けられるよう、令和3年10月から、子ども医療費助成の対象年齢を18歳までに拡大してまいります。みやぎ県南中核病院の経営健全化に向けては、地域医療を崩壊

させないためにも、緊急的な財政支援を行い、安心の確保に努めてまいります。

また、感染症リスクの高い高齢者の閉じこもりなどを誘発し、フレイルの発症など健康への悪影響も懸念されています。今後は、3密対策を十分行った上で、「家トレ30」などの健康づくり事業を行い、高齢者のフレイル予防に努めてまいります。

2 自然と共生した魅力的な空間づくり

コロナ禍の影響で外出が制限され、自宅での自粛生活を余儀なくされたことから、公園で気分転換をする人たちが各地で見られました。

利用者が増えた公園が、子どもから高齢者まで、また、地元住民から観光客まで楽しめる新たな生活スタイルの場、コミュニティの再構築の場となるように、

トイレや遊具の充実を図るとともに、公園や広場といったオープンスペースや街路をグリーンインフラと結び、魅力ある屋外空間として整備してまいります。

またなか景観形成事業を通して、花や緑が豊かで快適な空間をまちの顔となるよう整備するとともに、オープンスペースを活用し、住民主権の地産地消マルシェやバザーなどのイベントが頻繁に開かれる、にぎわいあふれるガーデンシティの形成を目指してまいります。

3 外部人材を活用した地域ビジネスの創出

コロナ禍によって、若者の働き方や生き方、住む場所についての考え方に変化が見られます。ワークライフバランスの実現のために

も地方で働きたいという若者が増え、ITが利用できるレンタルオフィスなどで

仕事をするテレワークや、日常の職場、居住地から離れ、リゾート地や温泉地がブームとなっております。

こうした新天地を求める若者の動きを、柴田町においてもしっかりと受け止め、若者が都会で培った情報技術やものづくり技術、デザイン力などを生かして仕事おこしができるよう支援していく必要があります。

これまで進めてきた観光まちづくりや里山ビジネスにおいても、UJターンした若者や地域おこし協力隊員の持つビジネスセンスを活用しながら、地域ビジネスのブラッシュアップに努めてまいります。

さらに、近隣自治体と連携・協調したサイクルツーリズムやフラワーツーリズムといった広域観光を切り口に、新たなコンテンツの充実を図り、人を呼び込み新たな地域ビジネスにつなげてまいります。

4 子どもたちが健やかに 育ち活躍するまちづくり

次代を担う子どもたちの学校環境を改善するために、これまで約50億円をかけて、小中学校の校舎、体育館、武道館、プールなどの大規模改修やエアコン、洋式トイレなどの施設整備に全力を挙げてきました。

また、国のGIGAスクール構想に基づき、各校でのパソコン一人一台を実現するため、約3千台のノートパソコンを整備したところです。

先生方には、デジタル教材や動画を活用して、分かりやすい授業やオンライン学習を行っていたいただき、子どもたちの学習意欲や学力、そしてコミュニケーション能力を育てて欲しいと思っています。

さらに、昨年、子どもたちが自然の中で伸び伸びとたくましく育って欲しいと

願って太陽の村に整備したキッズバイクパークが、4月から本格的に稼働します。今後とも、太陽の村が子どもたちの冒険心を養う場として、また、子どもたちの交流の場として、その魅力がさらに高まるよう大型遊具などの整備を計画してまいります。

5 持続可能な自治体 マネジメント戦略

新型コロナウイルス感染症の感染拡大とデジタル化の進展に翻弄されている地方自治体が、今後持続的に発展していくためには、激しい時代の変化に柔軟かつスピード感を持って対応していくことが求められます。

まずは、事務事業の効率化や質の高いサービスの提供を目指し、デジタルテクノロジーの活用を図るとともに、マイナンバーカードの利用拡大を通して、令和

4年4月から住民票などのコンビニ交付を始めてまいります。

さらに、公共施設等総合管理計画および公共施設個別施設計画に基づき、業務のアウトソーシングや公民館、生涯学習センターなどの指定管理、特に総合体育館の建設においては、官民連携によるPPP方式を導入し、民間の資金やノウハウを活用し、効率的で使い勝手の良いものにしてまいります。

また、新たなデジタル化時代に、柴田町が主体的で意欲的な政策を展開していくためには、しっかりとした財政基盤を確立していかなければなりません。コロナ禍による地方経済の混乱で、今後税収の伸びは期待できそうにありません。町としては、地方への財源を移譲するしくみである「ふるさと納税」を積極的に活用して、財源確保に努めてまいります。

次のステージ ガーデンシティに向けて

地方においては、コロナ禍をはじめ、頻発する自然災害、人口減少による地域経済の衰退、老朽化する社会インフラ、若者の雇用や生活の不安定化、子どもの貧困、お年寄りの社会的孤立、買い物難民など一連の問題が複合的に絡み合い深刻化しています。まさに、さまざまな面で、地方自治体の持続可能性が脅かされる危機に直面しています。

こうした危機をどのように乗り越えていくのか、今こそ画期的な政策が求められる時はありません。アフターコロナ時代においても、柴田町が持続的に成長発展できる未来へのシナリオを早急に示していく必要があります。

これまで、地方自治体の多くは、地域の活性化の重要な柱として企業誘致に奔

走してきました。しかし、産業構造が、ものづくりからITやデジタル化に変化する中で、製造業の海外移転や工場の集約化により、誘致した企業が撤退し、地元経済に相当の打撃を受けている地域も出てきています。また、インバウンド観光により息を吹き返した地域も、コロナ禍の影響によって大打撃を受けています。

しかし、デジタル化の社会が到来しても、今もなお21世紀の成長産業は観光であり、観光まちづくりは、自分たちのアイデアや創意工夫、プロモーションによって自ら「稼ぎ」を生み出すことができる、地方創生の柱であることに変わりはありません。

柴田町は、これまで「花のまち柴田」のブランド化を目指し、船岡城址公園や太陽の村を起点とした観光基盤整備、観光コンテンツの造成、シティプロモーションやおもてなし作戦な

ど、一貫した観光戦略・戦術によって、年間のインバウンド客が7,600人を超え、昨年観光庁より、松島、蔵王、栗駒といった宮城県三大観光地と肩を並べる外国人の訪れるまちに認定されました。

桜ばかりではなく、紫陽花、彼岸花、菊花、光の花（イルミネーション）といった四季折々の花を巡る通年観光地として、女性からの人気も高まっています。さらに、子どもたちからお年寄りまで、積極的に観光ボランティアに関わっていただいています。

観光まちづくりの一番大きな成果は、「花のまち柴田」の知名度が高まり、多くの人や企業に関心を持ってもらえるようになったことで、昨年12月初旬時点でこの寄附金の半分を、さらなる住民サービスの向上に活用していきたいと考えて

おります。また、柴田町の好感度が高まることで、地域住民の誇りや愛着、いわゆるシビックプライドの醸成や職員のやる気と自信、いわゆるスタッフプライドにもつながっています。

コロナ禍の中、治療薬が開発され、ワクチンが普及するまでは、観光まちづくりへの影響が長期化することは避けられません。

一方で、美しい自然景観や田園風景を巡り、地元伝統文化や人情に触れ、また地方のおいしいものを食べたいと思う観光ニーズに変化はありません。

こうした観光ニーズを踏まえ、柴田町からアフターコロナの新たな観光スタイルであるマイクロツーリズムやフラワーツーリズムを提唱するとともに、自然や歴史、文化資源を生かしたオープンスペースをネットワークで結び、まち全体を地域観光の拠点としていきたいと考えています。

今年の町政運営においては、当面耐える時間が続きますが、苦しくても前を向き、アフターコロナの先を読み、柴田町の成長発展に向けて一歩階段を登っていきたいと思っております。

「長い階段は、一気に上がろうとする、途中でへばってしまいます。でも一段ずつ確実に上がっていけば、時間はかかっても、やがてはちゃんと頂上まで上がることができる（2000年シドニーオリンピック女子マラソン金メダリスト高橋尚子さんの言葉）」

「花のまち柴田」の次のステージ、ガーデンシティに向けて、まずは一歩を踏み出してまいります。

満開の白石川堤一目千本桜と特別列車



2021年を 迎えて

私は、牛農家を8年ほどやっています。ここまで仕事を続けられているのは、同じ牛農家の方々と話す機会があるからです。また、さまざまな発見があり刺激があることで、飽きることなく、楽しみながらこの仕事と向き合っています。ほかに稲作もしています。昨今は、自然災害や新型コロナウイルスの世界的パンデミックによる農作業への影響などで、大変なこともありましたが、しかし、有り難いことに昨年は順調に仕事をすることができました。

今年は、世の中に落ち着きが戻ることを日々祈り、自分のペースで仕事をしていきたいです。



おのみや なあと
大宮 直人さん
畜産業
(富沢地区 28歳)

私が、中学校3年間で特に力を入れて取り組んだことは部活動です。吹奏楽部に所属し、コンクールで三年連続県大会出場を目標としていました。そんな中、昨年の新型コロナウイルス感染症によるコンクールの中止はとてもショックでしたが、私が部長としてできることは、文化祭で最高の演奏ができるよう、50人の部員をまとめることだと奮起し、練習に励みました。そして本番は、会場全体が盛り上がり心に残る演奏をすることができました。

私は、高校でも吹奏楽を続けたいと思っているので、中学校で経験したことを生かして、頑張っていきたいです。



なかむら ひより
中村 日和さん
船岡中学校3年
(船岡地区 15歳)



ささき ともあき
佐々木 大昂さん
仙台大学1年
男子ハンドボール部
(船岡地区 18歳)

小学5年生から父親の影響でハンドボールを始めました。自分の強みは、左利きで身長の高さを生かし、高い打点からシュートを打てることです。高校までと違い、大学の練習は、緊張感のある中で、質の高い練習が行われています。その中で、実力もですが、経験や声かけなど、自分にはまだまだ足りない部分が多いと感じています。

2年生になる今年は、自分の中で勝負の年だと思っています。メンタルを強化すること、筋力をつけることを目標として、大きく成長できる年にしていきます。



ひきち ゆか
曳地 由香さん
ケーダンス
K☆DANZA
(ダンスサークル)
(四日市場地区 50歳)

ズンバ
ZUMBAに出会い10年近く楽しんでいます。ZUMBAとは、ラテンの曲を中心に世界中のさまざまなジャンルの曲に合わせたステップや動きを取り入れた、フィットネスとダンスの融合プログラムです。筋力UPはもちろんのこと、気分のリフレッシュになり、私にとって一番の活力になっています。

2021年も昨年同様、ZUMBA・ヨガ・リージャム
最近始めたHIP-HOPに近いREEJAMをまだまだ楽しんでいきます。



にった むねお
新田 宗男さん
柴田町消防団・防災指導員
(槻木白幡地区 62歳)

私は昨年、防災指導員の資格を取得しました。この柴田町に住んで今年で20年になりますが、今まで自宅と職場の往復だけで、地域の皆さんとの関わりが少なかったと思い始め、5年前、消防団に入団しました。消防団の活動を通じて地域との交流も少しずつ増えました。

消防団は、防災指導に関しても地域に深く関わっています。東日本大震災、令和元年東日本台風と自然災害が増えつつある昨今、この資格で有事のとき町の防災対策に少しでも力になればと思います。

私は、「しばたっ子応援団」のポスターを見たことをきっかけに加入し、今年で4年目になりました。主に西住小学校と船迫中学校などで、のこぎりの使い方や、竹ぼうきづくりなどの学校支援を行っています。この「しばたっ子応援団」の良いところは、子どもたちの成長する姿を近くで見ることができるところだと思っています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事も中止が続き、わずかしか活動できず残念でしたが、今年は今までのように学校支援ボランティアの活動ができるように願っています。体が元気なうちは、この活動を続けていきたいと思っています。



はやさか かずお
早坂 一夫さん
しばたっ子応援団
(西住地区 73歳)

出産を機に柴田町へ移り住み2年になります。町には、子育て支援センターをはじめ、子育てを支援している施設が幾つかあり、イベントやサークル活動も盛んに行われています。子どもだけではなく親同士の交流の場にもなっていて、楽しい時間を過ごしています。県外出身の方も多く、こうした場所でのつながりは大変心強い存在となっています。息子もたくさんの方に支えられて、元気に育っています。昨年10月には、次男も生まれ家族が増えました。

これからも安心して子育てができる環境を、地域と共につくっていききたいと思ひます。



てしがわ まりな
勅使瓦 満理奈さん
柴田町育児サークル「ポップ」
(北船岡地区 30歳)

新たな1年の始まりに
10人の皆さんから
抱負を語っていただきました。



なかがわ りず
中川 梨寿さん
柴田高等学校3年
(新生町地区 18歳)

高校生活も残りわずかとなりました。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で高校生活最後の年の大事な時間を奪われてしまい、やり切れない気持ちでいっぱいでした。しかし、先生方や町民の皆さんの徹底した感染対策のおかげで、開催が危ぶまれていた文化祭と体育祭も無事行われ、高校生活最後の年に、友人と最高の思い出を作ることができ、本当に良かったです。

今年は、4月から大学に進学するので、新型コロナウイルス感染症などにも臨機応変に対応し、将来、地域に貢献できるように努力し続けたいと思っています。



かも りゅうのすけ
加茂 龍之助さん
東船岡小学校6年
(下名生地区 12歳)

6年間の小学校生活も残り3カ月になりました。昨年はコロナの影響もありましたが、とても充実した学校生活を送っています。最高学年となり、放送委員会の委員長となるなど、5年生の時よりも責任感がぐっと強くなりました。3月まで、勉強や運動、委員会の仕事をていねいにしていきたいです。

中学校に進学すると、最初は知っている友達より知らない人が多くなります。友達を増やし、楽しく過ごしたいです。勉強のレベルが上がる不安もありますが、今まで以上に勉強も運動もがんばっていききたいと思ひます。特に本格的に始まる英語をがんばりたいです。



ひきち みゆき
浅地 みゆきさん
柴田書道サークル
(四日市場地区 60歳)

5年前、退職を機に、町主催の書道教室に参加しました。現在は、サークルに所属しています。昨年は、毎月3回活動し、1回は農村環境改善センターで、残り2回はご指導いただく先生のお宅で、密を避け書道を楽しみました。書初めは「天地無私春又帰」。11月には、ゆる・ぷらで展示会を開きました。

今年は、毎日書に触れる。書くもよし。見るもよし。できれば多少褒めていただければさらによし。コロナ禍でも、サークル活動が継続できることに感謝し、仲間と共に楽しく書道を学び、上達できることを願っています。

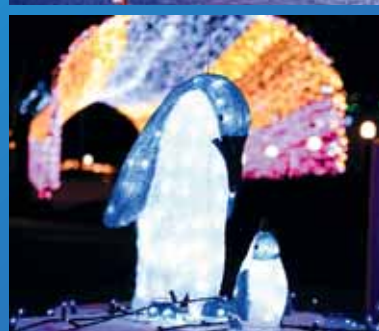
Shibata Fantasy Illumination 2020

12月12日(土)~30日(水)

船岡城址公園・白石川千桜公園



冬の夜に輝くしばたの イルミネーションの世界





メタセコイアの奇跡! 光り輝け槻木駅 2020

日 12月5日(土)~1月10日(日)

所 JR槻木駅前

新任の地域おこし協力隊を紹介します

地域おこし協力隊は、地域に魅力を感じている都市部の人材を積極的に受け入れ、地域の中で活動しながら、将来の起業や定住につなげることを目的としています。

今回の着任によって町内で活動している隊員は2人となりました。また、4月から活動に従事できる隊員を募集しています。

問まちづくり政策課 TEL54-2111

もり い りょう た
森井 亮多さん 30歳 出身地 東京都

昨年11月から、柴田町地域おこし協力隊に着任しました。今までは、マンション建設などの現場監督、不動産管理会社での事務職などをしていました。

将来、少子高齢化が進み自分が年をとったときに、仕事が無くなる可能性があると思い、転職活動をしていました。その中で、地域おこし協力隊の制度を知りました。

この制度は、何かに挑戦したいが、なかなか一步を踏み出せない人に良い制度だと思います。私も新しいことに挑戦するリスクを恐れて諦めていましたが、この制度のおかげで挑戦することができました。

協力隊では、主に「農業関係の仕事」と「自分のアイデア関係の仕事」の二つで収入を得られるように行動していきたいと考えています。

いろいろな人と関わりながら、地域の要望にあった活動ができればと思います。至らない点が多いですが、失敗と改善を繰り返して成長していき、柴田町に貢献できるよう頑張ります。

活動などの様子をYouTubeに上げていますので良かったら見てください。

チャンネル名「morii 地域おこし協力隊になった」で検索してください。



太田 正孝
(おおたまさたか)

- 1979年柴田町に倒煙式角窯築窯。1982年思太田窯開設(村田町の山中に窯築窯)。県内外の百貨店、ギャラリーでの個展多数。大学陶芸講師、美術材料店アートスクール陶芸講師、他講師多数。村田町「蔵の陶器市」「ふれあい芸術in村田」を企画。しばたの郷土館、村田町歴史みらい館、韓国全州全北藝術會館、石巻市雄勝硯伝統産業会館、蔵王町伝統産業会館等の企画展に出品。



この作品は、窯技を研究していた頃の作品。窯場周辺の土を配合して焼成していましたが、失敗もありながら狙いを定めたこの作品が美しい姿を現しました。
古の窯技を活かすことで、自分の世界観の表現に相応しいもの思いで制作しています。

芸術空間

Shibata Art Gallery

No. 11

『**窯窯自然釉窯変壺**』
あながましぜんゆうようへんつぼ
(陶芸)

太田 正孝



健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ75

第75回のテーマは、 「自分の血圧値を知ろう」です。

みなさんは自分の血圧値をご存じでしょうか。高血圧は、自覚症状がほとんどないため、見過ごされたり、放置されたりして重症化することもあります。また、血管に大きな負担がかかり、動脈硬化を進行させ、「脳卒中」や「心臓病」を引き起こす可能性が高まります。まずは自分の血圧値を知り、高血圧予防に努めましょう。

正常な血圧値

正常な血圧とはどのくらいでしょうか。

正常な血圧値(mmHg)	最高血圧		最低血圧
家庭での血圧	135 未満	かつ	85 未満
病院での血圧	140 未満	かつ	90 未満

一般的に、家庭での測定値は、病院より低めになります。

正しい血圧の測り方

血圧は、測定する時間や姿勢など、いろいろな影響を受けます。測定は、朝起きて1時間以内で朝食やお薬を服用する前と、夜寝る前の1日2回行いましょう。

測定前に気を付けたいこと

- ・ 食事、運動、入浴、喫煙の後は30分以上空けましょう。
- ・ トイレを我慢すると血圧が上昇することがあるため、あらかじめトイレをすませましょう。

ご自宅に血圧計が無い時は…

役場・各生涯学習センターに血圧計を設置していますので、ご利用ください。



保健師からのアドバイス

血圧は、気温や体調によっても変動するため、「上がった、下がった」に一喜一憂せず、日々測定を行い、自分の血圧値の平均を把握することが大切です。いつもと違う血圧値が長く続いたときは、医師や保健師に相談しましょう。

図 健康推進課 TEL 55-2160 FAX 55-4172

広 告

広 告

まちかど NEWS



実行委員会委員長の平間さん（写真右）と柴田地区保護司会小橋会長（写真左）。



船岡駅周辺の美化活動を行う仙台大学生。

明るい社会づくりに感謝状贈呈

11月12日（木）、第68回宮城県更生保護大会において、太陽・自然・人inしばた実行委員会と仙台大学に東北地方更生保護委員会委員長より感謝状が贈呈されました。

太陽・自然・人inしばた実行委員会は、平成13年から「バンドフェスタinしばた」を毎年開催し、青少年の健全育成や世代間、地域間交流を広めてきました。また、仙台大学は、学生が「船岡を明るくする会」の活動に参加し、町の環境美化、治安改善に協力しています。

ヤマト運輸(株)との包括連携協定を締結

11月24日（火）、ヤマト運輸株式会社と町の間で包括連携協定を締結しました。

この協定は、ヤマト運輸(株)が持つ地域に密着したサービスと連携することで「地域・暮らしの安心安全」や「地域活性化」などの5つの分野において、協働で住民サービスの向上を目指すものです。

ヤマト運輸(株)妹尾真一（まこと）新宮城主管支店長は、「弊社の持つノウハウを最大限に発揮して、柴田町の発展に寄与していきたいと思えます」と述べられました。



ヤマト運輸(株)と自治体の協定締結は県内2例目となります。

広 告

広 告

柴田町防災拠点・総合体育館敷地造成工事が完成

11月27日(金)、「柴田町防災拠点・総合体育館敷地造成工事引渡し式」が行われました。

7月から始まった工事は、天候不順などで遅れも心配されましたが、陸上自衛隊船岡駐屯地の隊員の方々の組織力、技術力で、予定より早く11月5日(木)に完成しました。

第10施設群の倉本浩二群長は、「4カ月に及ぶ長期の工事は、重機の操作能力や工事管理能力の向上につながり、貴重な経験となりました」と話していました。



7tダンプ5,571台分の土が搬入され、建設予定地の31,688㎡が整備されました。

多様性の社会で考える防災・減災講座



婦人防火クラブや民生委員など多くの方が参加されました。

12月15日(火)、榎木生涯学習センターで「男女共同参画・多様な視点からの防災対策実践講座」が開催されました。

災害時に、性別や年齢、国籍、障がいの有無などに関わらず、被災者の人権が守られた避難生活を送れるよう、地域防災力の向上を目的に行われました。

講師のNPO法人石巻復興支援ネットワーク兼子佳恵代表理事は、「普段から自分の存在を地域に知ってもらえるネットワークの構築が非常時には大切です」と述べられました。

第21区こんにゃくづくり

12月13日(日)、第21区の皆さんが、農村環境改善センターでお正月用の「こんにゃくづくり」を行いました。

第21区では、年末に毎年行われる恒例行事となっており、地元で収穫されたこんにゃく芋を使い、ベテランの扇さんと平間さんの指導で、皆さん手際よく作っていました。

平間井子^{せいこ}さんは、「こんにゃくづくりは初めてで、こんにゃく芋を見るのも初めてでした。お正月に食べるのが楽しみです」と話していました。



手作りならではの味わい深いこんにゃくができました。

告 白

告 白



こうほう 文芸

短歌

明けの頃電線めがけ飛来せる
鳥の大群ヒツチコツクの如
可沼 妙子

吹く風で枯れ葉集る道端に
夜露に濡れて朝日が照らす
梶木 白石 光子

澄んだ空ゴルフに興じるシニア等の
子供の頃のにぎわい楽し
西船迫 下浦 智子

社会は苦楽の集まりどう生きる
私はどこへ向かっているか
西船迫 安ヶ平良三

忘却とは忘れ去ること「君の名は」
ボケとは忘れ去ること「妻の名は」
四日市場 鳥井崎七十老

コロナ禍の遊戯の孫の台詞とは
新しい年「いらつしやいませ」
本船迫 森田 眞六

諍いに庭の薔薇見て気を静め
顔色見たり反省したり
船岡 伊藤タイ子

日暮れが早くなりし今八十路の友より熱々の
豆ごはんが届けられ胸熱くなり即仏壇に供える
船岡 大庭 とみ

思うことポツンと言う子遠慮がち
無償に可愛い瞳きらりと
船岡 沢田 順子

川柳

晩秋の朝日夕陽の茜色
西船迫 H・G

老ネコのためいたづら元氣な証拠
船岡 小林 夢子

深夜便聞きながら眠る心地よき
船岡 阿部美代子

久しぶり気分転換掃除する
西船迫 安ヶ平良三

「はやぶさ2」我が句題にはデカすぎる
四日市場 鳥井崎七十老

行く年やコロナも一緒に連れてって
北船岡 日下 功

師走夜急ぐマスクで眼鏡くもり
梶木 村上 紫寿

ヒヨ鳥の争そう声に残り柿
梶木 加藤 マサ

初日の出御遠慮下さいコロナ様
梶木 加藤 節子

俳句

霜月の中頃夫と岳の湯へ
船岡 可沼 妙子

陽だまりを猫背に絡い冬支度
西船迫 飛鳥

晩秋に山茶花目立つ花便り
梶木 平間 三郎

この沖に宙の展けて初詣
石母田星人

旅半ば降り立つ駅の雪明り
鎌形 清司

寒椿いちづに緋色つらぬけり
齋藤 善則

終の花零れ落つ更地かな
鈴木 三山

古里に古墳十五基笹子鳴く
鈴木 清子

握りしむ合切袋去年今年
鈴木 幸子

残る歳過ぎたる歳へ笹子鳴く
相馬カツオ

雪原を一直線に子の「ヤッホー」
峠 三枝子

夢を追ふ正月二日の朝かな
吉田 啓子

予約本夏秋すぎて師走かな
西船迫 安ヶ平奈津枝

初冬やとろける程に煮大根
西船迫 佐藤 厚子

寒き夕CD聞きて鍋作り
船岡 安藤 節子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで1月14日(木)まで応募ください。 圖 まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告

地域貢献し隊

本校は、平成19年に県内初の「コミュニティ・スクール」となり、「地域と共に創る学校づくり」を推進しています。また、昭和63年の開校以前の中名生分校時代から、地域は学校への協力を惜しまない気風を根強く残し、本校は正に「学校は地域に浮かぶ船」。保護者や地域の皆さまからのご理解とご協力に支えていただいています。

新型コロナウイルス感染症により、地域と学校が関わる多くの活動や行事が、中止や変更を余儀なくされていますが、そのような状況の中にあっても、可能な限りの教育活動の推進と充実を図っています。

子どもたちは、地域や地域の皆さまとの関わりを通してたくさんのことを学び、育っています。

1 感謝の心で 三名生児童館での除草作業

厳しい残暑がやっと終わりかけた9月11日。6年生が三名生児童館で除草作業を行いました。

担任から作業の説明の後、三名生児童館の館長先生から励ましや注意をいただき、作業開始。小さい頃からお世話になっている児童館は、自分の成長を見守ってくれている大切な場所です。6年生は、児童館への感謝の心を持って除草作業を行いました。



手作業で行った除草作業

2 地域を愛する心を おみこし練り歩き・東船岡秋祭り

東船岡秋祭りは、東船岡地区ふるさとづくり推進協議会与学校の共催で実施されてきた伝統ある行事ですが、今年は、学校と保護者のみでの実施となりました。しかし、少しでも地域との関わりを保つために、推進協議会会長の柳澤正博さんから開会の挨拶、副会長の柴崎久利さんから閉会の挨拶をいただきました。

10月31日の東船岡秋祭りと前日のおみこし練り歩き。子どもたちは、地域の皆さまに喜んでもらいたいという願いを持つとともに、東船岡地区を愛する心を一層深めました。



地域の皆さまに元気を届けた
おみこし練り歩き

3 地域をきれいに 全校クリーン作戦

学年ごとにコースを決めて、全校児童が学校周辺のごみ拾いをするクリーン作戦。春と秋の2回行う予定でしたが、1回目は中止としました。

秋晴れとなった10月29日。子どもたちは、自分たちの地域を自分たちできれいにしようと、地域への感謝の気持ちを持ってクリーン作戦に取り組みました。自分たちの力が地域のために役立ったという経験は、地域貢献への思いを一層強いものになっています。



地域への感謝の気持ちで通学路のごみを
拾いました

〔東船岡小学校長 三品 正人〕



柴田町 LINE 公式アカウント

イベントや防災・防犯情報など、
生活に役立つ情報をお届けします。

QRコードを読み取り、友だち追加してください。

問まちづくり政策課 TEL.54-2111



広 告

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。

技術を高め、責任の持てる 仕事をしていきたい

有限会社高美住設

鹿島 康広さん (38歳)

今回は、公共上下水道工事から住宅設備全般まで幅広く手掛ける(有)高美住設の鹿島康広さんをご紹介します。



東日本大震災直後に入社し、今年で10年目を迎える鹿島さんは、給水工事、排水工事の資格を取得し、現在主に、東船岡小学校のプールの耐震補強工事に携わっています。「工事の現場代理人を任されています。プールの給排水配管を新しい物に交換しており、現場での施工管理を行っています」と話します。

「この規模での現場代理人を務めるのは初めてでした。今まで経験していないことも多いため、先輩方に教えていただきながら進めています。規模が大きいに、打ち合わせの回数や調整事項も多く、そこが苦労しているところなんです。また、小学校での工事のため、安全には特に気を付けているようで、「工事している区画を、子どもたちが目で見て分かりやすいように表示するなどの工夫をしています。先生方にも工事の進捗を知ってもらうため、こまめに声を掛けながら情報共有を図り、

安全の確保に努めています」と話してくれました。

仕事のやりがいについては、「自分の手掛けたことが、目に見える形で、新しくなる、きれいになることが嬉しいですね」と話します。

今後の目標について、「後輩にうまく指導できているのだろうかと感じることがあります。教えるためには、自分自身もそれ以上に勉強しなければならぬ」と思っています。また、仕事の幅を広げるために、2級土木施工管理技士、1級配管技能士の資格取得を目指していきたい」と教えてくれました。

最後に、「子どもたちが挨拶をしてくれたり、頑張つてと声を掛けてくれたりします。そんな声を聞くと、少しでも早く快適な環境で学校生活を送ることができるようになってあげたいと思います」と優しく話してくれた鹿島さん。これからも頑張ってください。



給水配管のねじ込みを行う鹿島さん。



有限会社高美住設
柴田町船岡東2丁目1-8
TEL55-1351

槻木で創業し、昭和36年に現在の場所に移転。上下水道工事指定店として水回りの困りごとなど、給排水工事を幅広く手掛ける。従業員18人(本店、角田支店含む)

人口と世帯数
(令和2年12月1日現在)



37,582人
(前月比47人減)



18,765人
(前月比29人減)



18,817人
(前月比18人減)



16,009世帯
(前月比3世帯減)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。